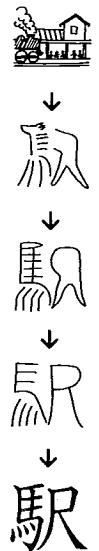


駅

三年
画数
筆順
オシ
エキ
14

馬 駅

成り立ち



むかしは、長さをはかるのに、手をつかいました。親

ゆびをもとにして、ほかのゆびをいっぱいにのばした長さを「尺（年905）」といいましたが、「尺」はそのときの手の形をあらわしたもののです。

長い長さは、尺とり虫がすすむように「つぎつぎ」に手をうつして、一尺二尺三尺とはかりました。

むかし、いそいでたびをする人のために、町町に馬をようしておき、一つの町の馬は「つぎ」の町まで行くようにし、「つぎつぎ」に馬をのりかえて行きました。それで、「つぎつぎに馬をのりかえるところ」を駅といいます。

「旧字体は『驛』で、『代える』意味の『累』と馬との会意・形声字であり、駅はその仮借である。羣も尺も漢音はセキ（エキ）で、吳音はシャク（ヤク）である。」

中央

三年
画数
筆順
オシ
エキ
5

成り立ち



人が「」のまん中にいる形ですから、この字が「まん中」というみにつかわれるようになり、今は「まん中」というみだけにつかわれ、「わざわい」というみには「殃」という字が作られました。

人が「」のまん中にいる形ですから、この字が「まん中」というみにつかわれるようになり、今は「まん中」というみだけにつかわれ、「わざわい」というみには「殃」という字が作られました。

▽むかし、江戸（今の東京）と京都をむすぶ東海道には宿駅が五十三ありました。それで、これを「東海道五十三次」といいました。次とは、「馬を次々とのりかかるところ」といういみのことばです。

▽今の駅は馬のかわりに電車や汽車がかつやくしています。けれども、「軒」と書かないで「駅」と書くところがあつておもしろいと思います。

△宿駅（宿屋や中つぎの馬のようしてあるところ。むかし、たび人がとまつたり、馬をのりつぎするせつびがある大きな町のことです。宿場、宿場町）

△駅伝（むかし、宿駅からとなりの宿駅に人やにもつをおり伝えました。この「駅から駅に伝える」しくみのこと。今は、長きよりのリレーによる競走のいみにつかわれています。例箱根駅伝）

△駅頭（駅のあたり。駅のホームのいみにもつかわれます。頭は「あたり」「ほとり」のいみ）

△駅弁（駅で売っている弁当）

△駅員（駅につとめている人）

△駅員（駅のあたり。駅のホームのいみにもつかわれます。頭は「あたり」「ほとり」のいみ）

使い方

▽友だちと三人で写真をとりました。向かって右が石川君、左が田坂君、中央にいるのが、ぼくです。

▽わたしの家の近くの広い道路には、中央に、分離帯があります。分離帯があると、安全だし、植込みがありして、きれいです。

熟語例

△中央（まんなか。中心。また、働きの上で、中心になつているところ。例「中央郵便局」）